

洋上風力 戦略産業クラスター計画（九州地域）の概要

現状と課題

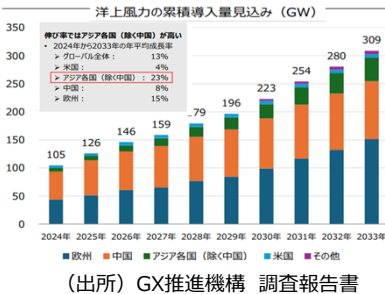
九州地域のポテンシャル（強み）

- 洋上風力産業への参入希望が多く、地域で形成が進む産学官ネットワークには延べ約560者が所属。
- 北九州港は、西日本唯一の基地港湾であり、総合拠点化の取組が進行。基地港湾背後には約120haの産業用地を確保（響灘東・西地区）。
- 既に日鉄エンジニアリング（株）等による大規模投資（右記参照）も進展。アジア太平洋市場の獲得を見据えた地域サプライチェーン構築のポテンシャルが顕在化している。

● 現状（その地域・産業を取り巻く将来の見通し）

グローバル競争の中で拠点の確立が問われる転換点

- 洋上風力市場は世界的に拡大。アジアの導入容量は2030年に126GWとの試算あり。
- 風車は大型化（次世代機：18～20MW級）が進行。
- 一方で、大型風車は国内製造拠点が存在せず、関連部品も海外依存度が高い。
- 産業界では、**2040年国内調達比率65%**が目標。



● 課題 インフラ

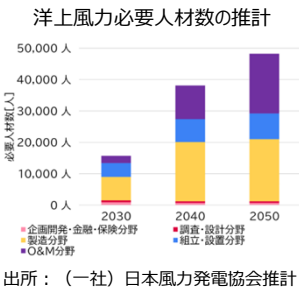
- 港湾インフラにおいて、水深、地耐力等が風車及び風車部材の更なる大型化への対応には不十分。浮体式拠点化を目指す北九州響灘西地区の地盤が未改良。

サプライチェーン

- 海外風車メーカー・関連サプライヤーの技術・投資の呼び込み、地域サプライチェーンの構築が課題。

人材不足

- 国内では**2030年に16,000人の専門人材が必要**。現時点では約4,000人程度。



進行中の大規模投資案件と取組

● 核となる大規模投資案件【道筋】

【日鉄エンジニアリング（福岡県北九州市）】

2030年までに世界トップクラスの浮体式基礎生産体制を構築。投資額約128億円（※1）。

【みらいえのしま（長崎県西海市）】

2029年までに長崎県西海市江島沖において420MWの洋上ウインドファームを設置（※2）。投資額非公開。



出所：日鉄エンジニアリング HP

- ※1 GXサプライチェーン構築支援事業（経産省）に採択
- ※2 再エネ海域利用法促進区域（経産省・国交省）に採択

● 課題解決に向けた取組【政策手段】

港湾インフラの整備

- 北九州市響灘東地区の約60haの産業用地と港湾インフラを活用。ウインドファームに対する積出・建設・物流拠点にする。

地域サプライチェーンの形成

- 北九州市が中心となり、風車部材の製造工場等の誘致（響灘東地区）、浮体式基礎や係留装置等の製造工場の投資（響灘西地区）を促進。
- 「九州洋上風力産業推進パートナーシップ」（※）を中核に、洋上風力産業の振興組織（行政及び産学官ネットワーク）が大手サプライヤー等との連携機会を創出。

※九州における洋上風力産業の更なる集積と競争力強化のため、九州経済産業局、関係自治体、九州経済連合会等により2026年6月に結成。

人材育成・確保

- 人材育成機関（※）において、大学生、社会人対象の講座・訓練機会を提供。
- ※九州大学洋上風力教育研究センター（RECOW）、長崎海洋産業クラスター形成推進協議会が運営する長崎海洋アカデミー（NOA）・NOAトレーニング等



出所：NOA ホームページ

目指す姿【目標】

アジア太平洋市場を獲得する拠点の形成

- 港湾インフラ
- 地域サプライチェーン
- 人材



（資料）北九州市ホームページ



（地図）国土地理院

官民設備投資額

【KGI】2040年時点での累積額：855億円規模

【KPI】① KGI投資内容のうち公開可能な情報

企業名	投資金額	投資年度
みらいえのしま	約568億円（※）	～2040年度
日鉄エンジニアリング	約128億円	～2030年度
中野鉄構	非公表	～2030年度
今西鉄工	非公表	～2026年度

（※）一定の条件で計算したOPEX推計額

② 2030年時点での累積額：339億円

③ 2030年時点での累積投資件数：5件

付加価値増加額

【KGI】2040年時点での累積額：約2,000億円

【KPI】2030年時点での累積額：約533億円

人材育成数

【KGI】2040年までに14,700人の人材を育成。

【KPI】2028年までは足元の実績を踏まえ、900人/年（九州大学洋上風力教育研究センター、NOA・NOAトレーニング等）を育成。2029年度以降は1,000人/年の人材を育成。